

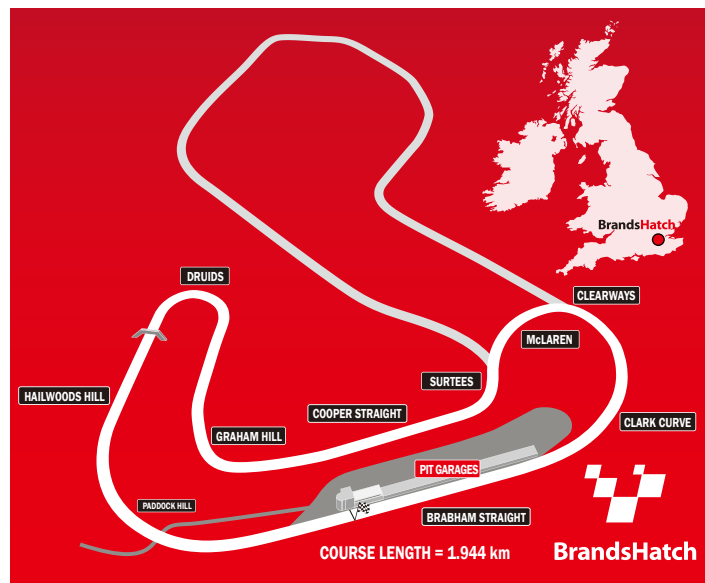


### 絶妙なピットストップを決めた 名コンビ WHEELER/HACK 組が勝利。

6月23日(日)ブランドズハッチのスターティンググリッドに27台のヒストリックレーシングミニが帰って来た。16:01、オールレッドシグナルと共に『2013三和トロフィー決勝』の幕が切って落とされた。

ポールポジションは SWIFTUNE チームの Bill Sollis / Dave Mountain 組 (#76)、続いて昨年の表彰台を占有した Blakeney-Edwards (#63)、Beebee (#59)、Daniel Wheeler (#88) など強豪がひしめく中、各車きれいなスタート。レーシングカーとは思えぬ美しいボディのMK1クーパースが全開で第一コーナーに飛び込んでいく様は、まるで60年代にタイムスリップしたかのよう。先頭の Sollis が順調に2位との差を広げていった6周目、第一コーナー後の下りで4番手を走行していた昨年のチャンピオン Beebee に左フロントホイールが外れるアクシデント。大きな砂煙を巻き上げながらダートに突っ込み、グランドスタンド前で早くもレース終えた。安全確保のためのセーフティカーが入り、5周の間各車タイヤを温めながらのスロー走行。Sollis にとっては、2秒723まで広げた2位との差が水の泡となってしまった。

コースがクリアになり12周目よりバトル再開。順位に変動がないまま、1~5位が2秒内にひしめき合う手に汗握る混戦状態。ところが15周目、8位争いをしてきた Jonathon Hardtop (#78) と Laurent Majou (#99) が DRUIDS コーナーの立ち上がりで交錯。Majou の車はバリアに激突して大破。再びセーフティカーが入り先導。中盤ということもあって各車一斉にピットイン。ドライバーチェンジと共に規定の30秒間のピットストップを終え、コースに戻ってみると順位は大きく変動。Wheeler から交替した Andrew Hack (#88) と、Phil Burgess (#27) が大きく順位をジャンプアップ。その後、周回遅れを



バスしながら、トップ争いと3~7位争いの白熱したバトルが繰り広げられ、観客は総立ち。

レースが動いたのは30周目。3~7位争いの混戦を抜け出したのは、Mountain (#76) と Peter Crewes (#6)。Crewes はその後も Mountain を追い掛け回し、33周目にはファーステストの記録と共に3位に浮上。圧巻だったのはトップ争い。18周目以降、幾度となくサイドバイサイドのままコーナーに進入する目の離せないバトルを繰り広げ続けた Hack (#88) と Nick Swift (#63)。そして2013年三和トロフィー耐久レースを制したのは、Wheeler / Hack 組。Blakeney-Edwards / Swift 組は一步届かず、昨年に続いての2位という結果であった。終わってみれば、二度のセーフティカー導入が明暗を分けたレースであった。

### 2013 Sanwa Trophy - Lap Chart

